

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	十四軒町の家理念 大切な人にこの場所を・・・ 職員全員で考えた理念はパンフレットや職員が毎日目を通す連絡帳などに明記し、職員が日々、意識できるよう工夫している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	十四軒町の家 運営会議・グループホーム会議・職員全体会議 上記の会議内や新人研修・勉強会において理念を共有している。 また、日々の業務の中で常に確認し、実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議へ地域の方々(自治会長や児童民生委員)やご利用者・ご家族に参加いただき、事業所の理念に基づいた取り組みを伝えている。また、会議に参加できない方へは玄関ホールに理念を掲示したり、毎月のお便りに理念を記載し、ご理解いただくよう努力している。	○ 地域の方々に今以上に運営推進会議に参加していただくよう、開催日を平日から土曜日へと変更している。また広報誌を作成するなどし、十四軒町の家が行っていることの意味をさらに多くの方々に伝えていけるよう努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会の会合や行事への職員の参加や事業所での開催(場所の提供)や十四軒町をの家の行事や避難訓練に町内の方々に参加いただくことで、事業所に入りやすい雰囲気を作り、職員だけでなく、ご利用者ともお互いに声をかけやすい関係作りに努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃の挨拶をはじめ、西十四軒町自治会員として、区民運動会やバレーボール大会・ソフトボール大会などに参加している。また、自治会地蔵盆・餅つき大会等を当事業所で行う事で地域の一員として自然に交流している。イベントなど特別な時だけの付き合いではなく、古紙回収・回覧板など日常的な「ご近所づきあい」にも努めている。	

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、当事業所の取り組みを報告するだけではなく、児童民生委員・自治会長・地域包括支援センター職員と情報を共有している。地域の福祉の窓口として事業所があることなど、共に地域貢献に向けての話し合いに努めている。	○	地域の方々に今以上に運営推進会議に参加していただくよう、開 催日を平日から土曜日へと変更している。また広報誌を作成するなどし、十四軒町の家が行っていることの意味をさらに多くの方々に伝えていけるよう努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者だけでなく、職員全員へ自己評価を実施している。外部評価後も改善内容を一覧することで職員へ周知し一人ひとりが理解すると共に、運営推進会議でも報告し、評価を活かした改善への取り組みを行っている。外部評価以外でも定期的に各部署の責任者が自主点検を行いサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご家族・ご利用者・自治会長・児童民生委員・地域包括支援センター職員・事業所職員がメンバーとなり事業所からの報告だけではなく、地域の方々からの情報提供や事業所へのアドバイス、指摘を頂き、サービスの質の向上に向けての取り組みに活かしている。また、異なる立場の方々にメンバーとなっていたことで、様々な角度からご意見を頂ける、貴重な機会となっている。		地域の方々に今以上に運営推進会議に参加していただくよう、開 催日を平日から土曜日へと変更している。また広報誌を作成するなどし、十四軒町の家が行っていることの意味をさらに多くの方々に伝えていけるよう努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京都市の担当者に当事業所を見学頂くことで現状を伝え、より良いサービスを提供するためのアドバイスを頂いている。また、地域包括支援センターとは2カ月に1回の運営推進会議の他にも、地域ケア会議の場所を提供するなど、積極的に連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。依頼があれば、勉強会・研修の講師等の派遣にも積極的に対応している。	○	高齢者率が高い地域でもあり、高齢夫婦の世帯や認知症の方を介護している世帯も多い実態を考慮すると、さらなる連携の強化に努めたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内研修にて年1回実施しており、権利擁護に関する制度について管理者・職員が学ぶ機会がある。また、外部研修にも積極的に参加し、知識を深める努力をしている。必要とされるご利用者へは、管理者・職員が連携し、研修で学んだ知識を活かし、求めておられる情報を提供するとともに、必要性に応じて専門家(司法書士など)からアドバイスを頂き、支援している。	○	様々なケースに対応できるよう、知識を得る機会を設けるとともに、必要な情報が収集できるネットワークを確立できるよう努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修にて年1回実施しており、高齢者虐待防止関連法について、管理者・職員が学ぶ機会がある。また、事業所内でも『身体拘束』について勉強会を開催している。介護現場では、振り返りのカンファレンスを行い、虐待が見過ごされていないか注意を払い、防止に努めている。	○	法人内研修・事業所内研修にて研修を行っているが、より多くの職員が年1回以上参加でき、知識を得られる機会を設けるよう努めたい。

十四軒町グループホーム(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

十四軒町グループホーム(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では年間計画を立て、職員の経験段階に合わせた研修計画を作成し、職員が研修を受ける機会を設けている。事業所内でも年間計画を立て、多くの職員が参加できる機会がある。外部研修については案内を全職員が確認できる場に掲示し自主的な研修参加を促している。また、資格取得に対しては勉強会などを行い、サポートする体制がある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政区内、近隣の事業所とともにネットワークを作り、認知症サポーター養成講座を開催している。また、グループホーム部会を立ち上げ、勉強会やケース今冬を行い、事業所のサービスの質を確認・向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員休憩室を設け、職員が勤務時間内に介護現場から離れる事が出来る環境を整えている。また職員互助会が主催し、年数回の所属部署を超えた親睦会を企画し、法人内の事業所と交流を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員より研修参加の希望があれば、意向に添えるよう勤務調整をし、向上心を尊重できるよう努めている。それぞれのキャリアに合った研修への参加を促している。また、管理者によるヒヤリングにて職員の思いや希望を把握し、研修調整などに反映している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接の際にご利用者の意向やご入居されてから望まれる事、続けたい事、して欲しくないことなどを確認する機会を設け、ご利用者の思う生活に合わせたサービスの提供がスムーズに行えるよう努めている。また、ご入居後もマンツーマンでゆっくりとお話を聞かせて頂く時間を大切に、その思いを職員間で情報共有するよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けてから事前面接までの間は電話にて現在の状況やご家族等が困っておられる事を確認している。事前面接ではご自宅に訪問し、ゆっくりとお話を聞くことで、入居後に求められているサービスの確認を行っている。契約はホームで行い、再度不安やニーズを確認するとともに、ご本人がおられない場所で聴く機会を設け、話しやすい環境づくりに努めている。	

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は管理者・リーダーに報告し、早急にカンファレンスを行い、ご家族・ご利用者が求めているサービスが何であるかを見極める機会を設けている。また、必要があれば他機関とも調整を行い、スムーズにニーズに応える事が出来る体制を整えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居の事前面接へは介護現場の職員が、ご自宅を訪問したり、ご家族とともに、施設見学をしていただくようお願いしている。また、ご入居前に併設のデイサービスセンターをご利用頂くことで、挨拶などを通し顔見知りになっておくことでリロケーションダメージが軽減するよう取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話による情報収集を大切にし、ご利用者が持つておられる力、得意な分野を把握できるよう努めている。その上で、可能な限り、生活場面でご利用者と職員が共同作業を行うことで、「介護される」「介護する」という縦の関係ではなく、「共に生活をし、支え合っている存在」であることをお互いに認識できるよう努めている。また、センター方式を導入することで利用者主体の視点もつよう努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「ご利用者を支える同じ立場」であることを意識した関係作りを目指している。小さなことでも連絡し、報告することで、共に考える機会を設けている。ご利用者とご家族を含めた暮らしを包括的にサポートするよう努めている。また、ご家族の要望に応じてご利用者の日常生活、ご家族の希望を個別で確認する場も設けている。ご家族の思いを知る事が出来る貴重な機会となっている。		事業所はご家族と共にご利用者を支える支援者である事を意識し、ホームでの暮らしの様子についてのご家族の不安等を早期に解消できるよう心がけている。定期的な書面での報告の他、必要時にこまめな情報提供と相互の連絡を取り合う事で、ご家族の意向や思いを確認し、安心してご利用いただけるよう努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者お一人おひとりの生活歴・家族関係を把握することで、今まで通りの関係、ご利用者・ご家族が望まれる関係を支える「橋渡しの存在」であることを心がけ、支援している。また、ご利用者・ご家族から今までの思いを話して頂けるような信頼関係が築けるよう努力している。		事業所はご家族と共にご利用者を支える支援者である事を意識し、ホームでの暮らしの様子についてのご家族の不安等を早期に解消できるよう心がけている。定期的な書面での報告の他、必要時にこまめな情報提供と相互の連絡を取り合う事で、ご家族の意向や思いを確認し、安心してご利用いただけるよう努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居前の事前面接では馴染みの場所・人などの情報を収集しご入居後にも関係が途切れないよう支援に努めている。実際の介護現場ではご自宅へ帰られたり馴染みのお店、お寺へ出掛けられるなど、一人ひとりの思い出の場所に出向く事が出来る体制を整え、入居後も地域の一員として暮らせるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者一人ひとりの希望や認知症状を把握した上で、自然に関われるよう必要時に職員が介入し、お互いを理解していただけるよう努めている。また、ご利用者のお好きなこと・得意なことを日頃の会話の中で情報収集を行い、出来る事を見極め、役割を持っていただくことで孤立せず、ご利用者同士が支えあって生活できるよう努めている。		

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時にご家族の了承を得て、定期的に面会へ行き、病状の確認とサービス継続を選択して頂けるよう努めている。また、面会のご様子をご家族に報告することで、共に考える機会を設けることで、安心感と信頼感を深める努力をしている。また、契約が終了したご家族が記念日に立ち寄ってくださるなど、継続的な関りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意向、暮らし方の希望についてはご入居前の面接時に面接票に記入している。ご入居後はセンター方式を用い、生活歴や日課の希望を確認し、意向に沿ったケアプランを作成し、実施できているか毎日確認している。また、職員一人ひとりがご利用者の暮らしが本人本位であるかを意識することで、希望を伝えることが出来ないご利用者の思いを把握できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の際に、ご本人・ご家族・担当ケアマネージャーより情報収集をしている。ご入居後はセンター方式を用い、ご利用者・ご家族・面会に来られた方からの日常会話の中で、今まで馴染まれていた生活の様子を話していただけるよう、関係作りに努めている。得られた情報は記録し、職員が共有できるよう努力している。		独居であったご利用者が多いため、生活歴・馴染みの暮らし方などについての情報収集が初期段階では得られにくいことが多い。ご入居後も積極的に情報収集をしていきたいと思う。センター方式についても随時、担当者が新しい情報を更新するよう努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	事前面接、入居後の日々のケアの中で、お一人おひとりの生活習慣についての情報を得られるよう、意識するよう努めている。また、生活場面において、共同作業をすることでその方が持っておられる、力を確認し、日常生活に活かしていけるよう努めている。その情報はセンター方式などに記録し、職員が共有できるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはご利用者へ生活場面での希望や意向を確認することはもちろん、ご家族へは希望、意向を確認する他に、ケア場面での工夫するポイント「家ではこういう風にすればうまくいった」などのアドバイスをいただき、ケアプランに反映している。また、必要時には関係者(医療スタッフ・福祉用具など)とも話し合いを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については定期では半年に1度の見直しの機会を設けている。ご利用者の状態、生活の変化、ご家族の変化など介護計画に変更の必要性が生じた場合は、ご利用者・ご家族へ状況を説明し、新たな意向の確認を行っている。必要時、関係者を交え、カンファレンスや定期の会議にて、現状に即した介護計画の作成に努めている。		

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ソフトを活用し、日々のご利用者の生活・医療面・ご家族について・その他の記録を管理している。新たな実践を行う場合は、必要に応じて個別の書式を作成し、実践・結果を記録するよう努めている。その情報は介護計画のモニタリングに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々変化のご利用者・ご家族の状況を把握するよう努め、定期の報告に加え、必要時には随時、連絡を積極的に行っている。変わりゆく状況に柔軟な対応が出来る体制を整えるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が、地域の一員として生活するうえで、その意向に合わせて、地域の防災訓練や行事に参加いただいている。また、運営推進会議には自治会長・民生委員の参加もあり、共に協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は訪問歯科や訪問散髪サービスを利用している方がいる。ご利用者の状況とニーズに応じてサービスを調整したり、運営推進会議などで情報を得るなどし、ご利用者のニーズに対し幅広い支援ができるよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加いただき、情報の提供やアドバイスを求め、協働で支援できるよう努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接の際に提携病院の往診を受けるか、現在のかかりつけ医の受診を継続されるかの選択をいただいている。入居後も変更は可能である。長年診ていただいているかかりつけ医を選択された場合は、受診時の情報提供や、必要があれば随時、連携をとりご利用者を支えている。精神科・歯科など科によってかかりつけ医をかえておられる方もいる。		

十四軒町グループホーム(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ご利用者・ご家族の多様なニーズに対応するために、ご利用者の生活に重点を置いた、介護技術や知識の習得と共に客観的な医療的ケアについての知識や視点を研修などで重ねていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴のご利用者も多いが、声かけ・日常会話には十分に気を配りながら、職員間でも注意し合えるよう努めている。また、法人内にてプライバシー保護に関する研修を計画しており、接遇に関しては外部から講師を招き、研修を行っている。職員が知識を得られる機会を設けている。	○ 日々のケアの中での言葉づかいを、職員間で注意できる環境づくりに取り組みたい。記録その他、書類の取り扱い、保管についても注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症及び認知症ケアに関する研修にて認知症高齢者について学ぶ機会があり、日常のケアに活かせるよう努めている。介護現場ではご家族からの情報や職員間で話し合いながら声かけの工夫を行い、ご利用者の自発的な言葉を引き出し、自分の意思を表せる支援を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事前面接やご家族からの情報、ご利用者の希望を基に一人ひとりに合わせた生活のリズムを把握し、食事・入浴・散歩・買物など日常生活の支援をしている。また、その日のご利用者の体調にも配慮し、『その人らしい暮らし』の実現を目指している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者の健康面、希望に応じ訪問理美容を受けることもできるが、昔から馴染んでこられたお店に通い続けることもでき、ご家族・ご利用者に選択いただいている。日々のケアの中ではお好きな髪形を職員が把握していることで毎朝ご利用者と鏡を見て確認したり、今日着る服をご利用者に選んでいただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお伺いし、献立に反映したり、近所のスーパーへの買物、野菜の皮むきなどの調理・配膳・食器洗いなど一連に職員と共同作業することによって、ご利用者の能力を発揮いただく場を設けることで、食を楽しんでいただくよう努めている。	○ 外食・出前を増やし、いつもとは違う環境での食を楽しんでいただく機会を増やしていきたい。今年度より開始した訪問調理にてご利用者の意見を反映できるよう取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	事前面接やご家族からの情報を基に日常的な楽しみを把握するよう努めている。また、ご利用者と一緒に買物に出かけることで、好みのものを見つけた時のご利用者の様子を視覚で確認することができる機会となっている。他にも季節の食べ物や好きな場所への外出など一人ひとりの希望に添えるよう支援している。	

十四軒町グループホーム(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排尿・排泄パターンを理解するために、実施したケアを記録を残し、個々にあった排泄支援に努めている。また、排便コントロールでは薬を増やしていただくだけではなく、自然排便を促すために、食物繊維が多い食事を使用したり、水分量を工夫している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴についての今までの生活習慣を重視し、間隔・時間帯・入浴時間・同姓介助等はお一人おひとりのペースに合わせて、支援している。浴室も個室となっておりプライバシーに配慮できる体制を整えている。他にも菖蒲湯やゆず湯など季節を楽しめる工夫をしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に安心して睡眠をとっていただけるよう日中活動を重視し、散歩や外出をして頂くなど活動量を増やすよう努めている。また、就寝時間は決めずにお一人おひとり、馴染まれたものを(ベッドや布団)をお選びいただき、安心して休息をとっていただけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事前面接、ご家族からの情報、ご利用者の希望をセンター方式に記入し、個々の生活歴、得意分野、お好きな事に合わせた役割(掃除、新聞配り、食器洗いなど)を持って頂けるよう努めている。介護現場では日々のケアのなかで、職員とご利用者が共同作業することにより、お一人おひとりに合った楽しみを発見できるよう心がけている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、ご利用者が昔から馴染んで使っておられた財布を使用している。金銭を自己管理されている方もおられ、花や服などをご自分で購入される事を支援している。買物の希望があれば、その日のうちに職員と一緒に外出できる体制を整えている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩、スーパーへ・商店街への買物、ご神木へのお参りなど個々の希望や思いに寄り添った外出支援を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外出される際は、トイレ等の心配ごとを、ご家族へ事前に確認し、安心して外出できるよう支援している。他には京都三大祭やお花見、紅葉狩りなど季節感を味わえる場所へも積極的に外出している。個々の希望に応じて個別や仲の良いご利用者同士でもご利用者に選んでいただいている。		

十四軒町グループホーム(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は居室に電話を設置いただいている。ご家族等より自由に連絡いただけるようにしている。電話をかける事、受ける事が困難なご利用者については職員が隣に寄り添い支援している。また、共有の電話にもご利用者に出て頂く事は可能であり、希望に応じて対応している。また手紙や年賀状をご利用者に書いて頂き、ご家族へ郵送したりご家族からのお手紙をお渡しする支援もしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けず、ご家族・友人・親戚・町内の方など馴染みのある方々に気軽に訪問していただけるよう配慮している。また、訪問された際は、ゆっくりと過ごして頂けるよう居室にご案内したり、スペースの工夫を行っている。面会者と外出・外食されたり、居室にて食事を一緒に召し上がるなどして過ごして頂いている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で行われる研修では高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会がある。また事業所内でも「身体拘束」についての勉強会を開催し理解を深めるよう努めている。介護現場では、実施しているケアが身体拘束に当たらないかを振り返る機会があり、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関は防犯上、夜間は施錠している。日中はすべての玄関は施錠していない。外出の希望があれば職員が同行し、安全に帰園いただけるよう連携・工夫している。施錠しないことで無断外出や事故のリスクがあることも、職員が認識し、必要であればご家族にも協力をいただき、安全を重視しながら、鍵をかけないケアの実践を努力している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員1名は必ずフロアに待機しており、ご利用者の所在、ご様子を把握するよう努めている。夜間についても定期的な巡視を行い、所在安否を確認している。また、引継ぎを行う際にはプライバシーに十分配慮し行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ハサミなど家庭において自然にある物については一律になくさず、ご利用者の状態に応じて、何がどのように危険なのかを考えた上で、置き場所について工夫している。また、事故のリスクがあることも職員が認知し、生活の中で注意を促すよう配慮している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内にて緊急及び事故対応についての研修を計画し、職員が知識を深める場を設けている。また、転倒・行方不明等の事故対応マニュアルを作成し、事故発生時にご利用者に合わせた対応ができるよう努めている。その他に実際に起こった事例を事故報告書やヒヤリハット報告書に記入し、会議にて報告する等で、振り返りを行い再発予防に努めている。	

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内にて緊急及び事故対応についての研修を実施し、職員が学ぶ機会がある。また、上京消防署と連携し、消防局が主催している救命講習を事業所内で実施している。職員の他に近隣の方も一緒に受講し、初期対応について学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	上京消防署の協力を得て、年に2回防災訓練を実施している。毎回、地域の方々にも訓練に参加いただき、緊急時には協力を得られるよう働きかけている。また、地域の防災訓練に事業所の防火責任者が参加し、連携を深めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族へ定期的に書面でご様子を報告する他に、日常的に電話や口頭でヒヤリハットの内容などお伝えすることで、ご利用者に起こりうるリスクをご家族と共に共有できるよう努めている。その上で、ご利用者の思いや希望を重視した生活を送って頂けるよう、プランに反映し、説明・同意いただき交付している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日血圧・脈・体温を測定し、記録している他、週1回の訪問看護もあり、数値の変化を早期に発見する事ができる。また、職員を固定する事で、馴染みの関係から生じる「いつもとは違う」ことが早期発見につながるよう、努めている。訪問看護師・提携病院とは24時間連絡体制があり、発見後、速やかに必要な対応へとつげる体制を整えている。	○	馴染みの関係から得られる「いつもとは違う様子」を早期に発見する為に、介護職員が医療的な知識の深める機会を増やすよう努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ごとの内服薬説明書にて使用方法・用量等について確認している。内服の変更があった時は、変更理由・内服薬・効用・注意点などを連絡ノートに記入し、職員間の情報共有に努めている。症状に変化があれば、訪問看護師や個別の主治医へ報告し、指示をあおいている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事については管理栄養士による栄養管理を行っている。その他にも、水分・乳製品・食物繊維が豊富に含まれている食品を摂取いただくよう工夫している。また、週に1回の訪問看護師には腹部の動きを確認していただき、便秘予防のアドバイスも受けている。排便コントロールについて薬に依存しすぎないよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	生活習慣を大切にされたケアを実施しているため、全員が毎食後実施しているとは限らない。誤嚥性肺炎を未然に防ぐため、就寝前の口腔ケアに重点を置いている。個別の口腔内の状況に応じ、お一人おひとりに合わせた口腔内の清潔保持に努めている。		

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分摂取量を記録し、把握している。献立については法人内の管理栄養士が管理し、栄養バランス等についてアドバイスを得ている。ご利用者に体調の変化、機能の低下がある場合は、ご本人が食べたい物・食べやすいものを食べられる時に提供できるように努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で感染症・食中毒に関する研修を計画し、職員が学ぶ機会がある。また、事業所内でも感染症対策委員による勉強会を開催したり、マニュアルを作成し、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台拭き・おしぼりは毎食後洗濯し、清潔を保つよう努めている。食器や調理器具については使用毎にアルコール消毒をしている。食材に関しては毎日買い物に行き、新鮮な食材を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関の自動ドアからは誰でも入れるようになっている。玄関ホールには季節の生け花や町内会で参加したバレーボール大会等の賞状などを飾っている。自治会所有の倉庫を事業所内に置き、町内の方が、違和感なく事業所に入る事が出来る工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体では木を多用した、安心感を抱く空間になっている。フロアでは自然の光がはいるよう窓を開け、閉塞感がなく外の景色が見渡せるよう配慮して。フロア玄関には季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り付けを行っている。台所では食事毎に調理の音や匂いがするなど、ご利用者が落ち着いて過ごせるよう、家庭的で馴染みのある雰囲気作りを心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	協同生活の安心感がある中にも、ご利用者が気を抜ける、一人ひとり居心地の良い空間を作るために、ソファーや椅子の配置を工夫している。		

十四軒町グループホーム(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前面接の際に、居室へお持ちいただく家具はできるだけ昔から馴染みのあるダンスやベッドなど使用頂き、できるだけ今まで生活してきた空間とのギャップが少ないようご家族等に協力を依頼している。また、家具の配置などについてもご家族・ご本人より情報を収集し、馴染みの環境づくりができるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の換気を行い、空気のとよみがないよう努めている。風の流れなどを使い、不快なおいを早く入れ替えるよう工夫している。また、冬場は加湿器を設置し感染症の予防にも努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、安全に生活できるよう設計させている。玄関などの段差やトイレ、浴室などには手すりを設置し、安全に配慮している。必要に応じ、証明を工夫しながら事故防止に努めている。		施設メンテナンスとしては定期点検しているが、職員がご利用者・ご家族の視点で見た時の、改善ポイントなどを検討する機会を設けたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者の生活歴や好みをご本人・ご家族等から情報を頂き、センター方式を活用する事により、日々の生活に生かせるよう職員間で情報を共有する努力をしている。また、必要があればご家族にも協力をお願いし、一緒にご利用者を支えるよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階玄関前には花などのプランターがあり季節の草花を楽しまれたり、ベンチで休憩されたり思い思いに過ごされる場となっている。各部屋にはベランダがあり、洗濯物や布団を干したり、安全面を考慮した上で、ご利用者ごとに好きなように活用できる空間ととなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

十四軒町グループホーム(3階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設より築いてきた、近隣との日常的な交流を続けることで、ご利用者が地域の一員として暮らせるホームであることを継続できるよう努めたい。その中でも運営推進会議は貴重な機会であると考え、「参加したいのにできない」というニーズに応えるため、開催日を平日と土曜日の交互に開催するなど、より多くの方に参加いただけるような取り組みをしている。

事業所はご家族と共にご利用者を支える支援者である事を意識し、ホームでの暮らしの様子についてのご家族の不安等を早期に解消できるようところがけている。定期的な書面での報告の他、必要時にこまめな情報提供と相互の連絡を取り合う事で、ご家族の意向や思いを確認し、安心してご利用いただけるよう努めている。